

平成20年度「民間実用化研究促進事業」のお知らせ

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター（生研センター）では、平成18年度より、農林水産研究基本計画に即して農林水産業、食品産業、醸造業等の向上に資する画期的な生物系特定産業技術の開発を促進することを目的として、民間における実用化段階の研究開発に資金を提供する事業を開始しており、平成20年度においても、引き続き本事業を実施することとしています。この事業は、提案公募による委託方式（日本版バイ・ドール条項を適用した委託方式）で行うもので概要は以下のとおりです。

- 研究開発期間：原則として3年間。
- 研究開発費の規模：1課題あたり1億円程度／年が上限（下限は定めていないので小規模でも可）
- 提案資格：生物系特定産業技術の実用化段階の研究開発を行っている国内の民間の登記法人
- 公募期間：平成20年4月14日（月）～5月16日（金）
- 公募説明会日時及び場所：平成20年4月3日（木）午後2時～4時 生研センター東京事務所（東京都港区虎ノ門3丁目18番19号 虎ノ門マリビル）2F大会議室にて開催

公募要領等の詳細につきましては、下記のホームページをご覧ください。

<http://brain.naro.affrc.go.jp/tokyo/marumin/kouboannnai/annnai.htm>

（参考）提案をお考えの皆様方へ

- 1 本事業は、国からの出資金による事業ですので、生研センターが課題採択を行うに際しては、ご提案された研究開発課題の「技術面」（技術内容・研究計画）及び「事業化面」（事業化体制・市場性・波及性・収益性）の各々について一定水準以上を求めることに十分ご留意下さい。
- 2 また、これまでいただいたご提案では、技術面には優れているものの、事業化面で一定水準に満たないものが多い傾向にありました。事業化のターゲットとする市場を十分調査・ご検討のうえで、事業化計画を作成していただくよう、どうかよろしく願いいたします。
- 3 併せて、本事業の研究開発の成果により売上が生じた場合は、売上の一定割合に相当する金額を納付していただく必要があることにも十分ご留意願います。
- 4 なお、提案書類作成に際しての様式の記入方法につきましては、生研センター事務局でご説明させていただきますことが可能です。どうかお気軽に担当までお問い合わせください。

<担当>

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構

生物系特定産業技術研究支援センター（生研センター）

新技術開発部 民間研究促進第1課 能登、向江

電話：03（3459）6565 FAX：03（3459）6566

E-mail：minkanken08@ml.affrc.go.jp URL：<http://brain.naro.affrc.go.jp/tokyo/>

(参考) これまでの採択課題の一覧

平成18年度は公募期間中に59課題が提案され以下の5件、平成19年度は公募期間中に56課題が提案され以下の3件を採択しています。

【平成18年度採択課題:5課題】

研究開発課題名(研究開発期間)	企業名	統括責任者名
生活習慣病を予防する高付加価値畜産食品及び素材の開発研究 (平成18年度～平成20年度)	日本ハム株式会社	山田 良司
バイオマスの機能性プラスチック材料化による利活用 (平成18年度～平成20年度)	アグリフューチャー・じょうえつ株式会社	大野 孝
乳製品副産物からの次世代型機能性素材の分画生産技術開発 (平成18年度～平成20年度)	よつ葉乳業株式会社	富山 享
養豚バイオマス利用嫌気性アンモニア酸化による排水処理実証実験 (平成18年度～平成20年度)	前澤工業株式会社	安部 収司
生乳混入抗菌性物質の自動検知センシングシステムおよび搾乳あるいは出荷自動管理システムの開発(平成18年度～平成20年度)	十勝テレホンネットワーク株式会社	小田原 崇人

【平成19年度採択課題:3課題】

研究開発課題名(研究開発期間)	企業名	統括責任者名
親鶏由来の機能性リン脂質群の分離とその含有食品の製造 (平成19年度～平成21年度)	丸大食品株式会社	杉山 雅昭
安全で環境負荷の少ない国産水稲用除草剤の開発・実用化 (平成19年度～平成21年度)	クミアイ化学工業株式会社	石原 英助
抗ストレス蛋白チオレドキシン高含有清酒及び素材の生産技術開発 (平成19年度～平成21年度)	レドックス・バイオサイエンス株式会社	杉田 憲治